

令和5年度

いばらきフォローアップ問題 算数 第7回 解答

() 年 () 組 () 番 氏名

1	(1) 2000	(2) 4.39
	(3) 88	(4) $4\frac{1}{9}$ または $\frac{37}{9}$
2	(1) $\frac{1}{9}$ <input type="text" value="<"/> $\frac{1}{3}$	(2) $\frac{5}{6}$ <input type="text" value=">"/> $\frac{5}{8}$
	(3) $2\frac{3}{8}$ <input type="text" value="="/> $\frac{19}{8}$	
3	4	
4	正方形、ひし形	
5	35 度	
6	<p>(例) 「185」、「296」、「246」、「176」の数をそれぞれ十の位を切り上げ、百の位までのがい数にする。 185→200、 296→300、 246→300、 176→200</p> <p>そして、百の位までのがい数にした数をたす。 200+300+300+200=1000</p> <p>このようにすれば、185+296+246+176の答えが、1000より必ず小さくなることをたしかめることができる。</p> <p>答え方のポイント</p> <p>「どんながい数にするのか」、「がい数のたし算の結果(和)」が示されていることがポイントです。方法・手順として、次の①、②が説明できているか確認しましょう。</p> <p>① 「185」、「296」、「246」、「176」それぞれの数の十の位を切り上げ、百の位までのがい数にすることとその具体的な数</p> <p>② ①のがい数のたし算の式を示し、結果(和)が1000であること</p>	

<6のとき方>

日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に合わせて数を大きくみたり、小さくみたりして、がい算することが大切です。

ステップ1

まず、がい数にする方法である「切り上げ」、「切り捨て」、「四捨五入」のどれを使えばよいか考えましょう。

1000 円で必ず買えることは、「185」、「296」、「246」、「176」をすべて大きく見積もって、たし算しても、答えが 1000 円を超えていなければ買えるとわかります。

数を大きく見積もるときは、「切り上げ」を使います。

ステップ2

次に、「切り上げ」でそれぞれの数をがい数で表し、たし算をします。

より簡単な計算で判断するために、十の位を切り上げ、百の位までのがい数にすると、

$$185 \rightarrow 200, \quad 296 \rightarrow 300, \quad 246 \rightarrow 300, \quad 176 \rightarrow 200$$

となります。

たし算をすると、

$$200 + 300 + 300 + 200 = 1000$$

となります。

大きく見積もっても 1000 円なので、1000 円で必ず買えることを説明できます。